

春から読書を始めませんか？

早いものでもう4月。つい2か月ほど前までは、外出するのがおつくうな気候でしたが、景色もすっかり変わり、日中はポカポカ陽気に包まれる季節になりました。4月といえば「新学期」、新学期といえば「スタート」ということで、今回は、赤ちゃんが初めて本と触れる「ブックスタート」と、スタートに関連した書籍を紹介いたします。



初めての絵本（ブックスタート）

ブックスタートとは、絵本を介して心ふれあうひと時を持つてもらおう「きつかけづくり活動」のことです。図書館から赤ちゃんとその保護者に、絵本や子育てに関する情報などが入った「スタートパック」を贈っています。

ブックスタートは、イギリス発祥の活動で、日本でも2001年から始まった、全国的な取り組みです。伯耆町では、乳幼児健診時に、生後7か月になる赤ちゃんを対象に、実施しています。



スタートパック

ブックセカンド

伯耆町では、ブックスタートのフォローアップとして『ブックセカンド』を実施しています。これは、心と身体が成長し、興味・関心が広がってきた3歳児を対象に、図書館で絵本の読み聞かせと、絵本1冊をプレゼントする活動です。絵本に出会う機会を作り、家庭での読書に結び付けてもらうことが目的です。

ブックセカンドの対象者には、図書館から通知しますので、ご連絡の上、図書館へお出かけください。

プレゼントする絵本例

- 『ちよつとだけ』 福音館書店
 - 『かばくん』 福音館書店
 - 『はけたよはけたよ』 偕成社
 - 『しろくまちゃんのほっとけーき』 こぐま社
- など

人生の目的は？

『木を植える男ポール・コールマン』
菊池木乃実/著 角川書店



コールマンは上流階級の生活を棄て、徒歩で世界中を歩き、木を植え続けました。その距離42,000km。何が彼をそこまでかりたてたのでしょうか。戦争や環境破壊、災害の地へと…彼の壮大なミッションを通して、揺るぎなき人生のテーマとは何なのか、発見の多い1冊です。

「つらい…」と感じたら

『宮澤賢治祈りのことば』
石寒太/著 実業之日本社



時として、言葉は悲しみや絶望から立ち上がる力を持っています。おなじみの詩「雨ニモ負ケズ」をはじめ、賢治の魂の言葉が、宇宙の煌めく星々のように、優しく降り注ぎます。著者の分かりやすい解説は、賢治をより身近に感じさせてくれ、賢治の世界観に穏やかな心を取り戻させてくれそうです。

ダイエットを考えている方へ

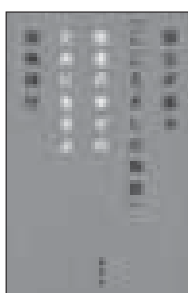
『シンプルに暮らす』
ドミニク・ローホー/著 中経出版



「生きる基本は食べること」が主題の1冊。本の中に、「食生活を見直すことで自分の内面も見直し、心と身体の健康を取り戻せば、『食べる』ことの本当の楽しみを感じることができる」とあります。単なるカロリーコントロールではない、自分だけのダイエット方法がみつかりそうです。

生きるための道を模索している時に

『祖父が語る「こころざしの物語」
他者の幸せのために生きよ』
加地伸行/著 講談社



中国哲学史研究の第一人者である著者が、高校生に向けて語った言葉が本になりました。75歳の著者が孫世代に、あたかも祖父のように、人のあり方、世の中の見方、友情、家族の絆など、深く熱く儒教の言葉を通して語っています。人間の器を広げる授業を、この本で体験してみてください。

お知らせ 4月

4月には「こどもの読書週間」があります。図書館でも、おすすめ本やテーマ展示を行います。ぜひお出かけください。

第54回 こどもの読書週間

《君と未来をつなぐ本》

4月23日(月)～5月12日(土)

テーマ展示

「日本の素晴らしい技術・技」 溝口図書館

「宮澤賢治をよもう!」 岸本図書館

●新着図書情報は、14ページに掲載しています。

【問い合わせ先】 溝口図書館 ☎62-0717 岸本図書館 ☎68-3617